令和７年度　図書館だより　〈第４号〉

令和７年７月１６日（水）　群馬県立太田フレックス高等学校図書室　発行

夏季休業中の開館日と開館時間

今年度の夏季休業中は、以下のとおり開館する予定です。ただし、８月上旬より蔵書点検を行いますので、ご理解ご協力をお願いします。今後、予定が変更になることがありますので、利用する際は、本校 Web ページまたは図書室の掲示板で最新情報を確認してください。

7月２２日（火）	１０：３０～１６：３０	8月　４日（月）	９：００～１６：３０
２３日（水）	１１：３０～１６：３０	５日（火）	９：００～１６：３０
２４日（木）	１０：３０～１６：３０	６日（水）	９：００～１６：３０
２５日（金）	１０：３０～１６：３０	７日（木）	９：００～１６：３０
２８日（月）	１０：３０～１６：３０	８日（金）	９：００～１６：３０
２９日（火）	１０：３０～１６：３０	２５日（月）	９：００～１６：３０
３０日（水）	１１：３０～１６：３０	２６日（火）	９：００～１６：３０
３１日（木）	１０：３０～１６：３０	２７日（水）	９：００～１６：３０
8月　１日（金）	１０：３０～１６：３０		

夏季休業前・特別貸出の実施

本日より、夏季休業前の特別貸し出しを実施します。返却期限は夏季休業明けの８月２９日（金）です。いつもより長期間利用することができます。今回のお便りで紹介する夏休みの本（緑陰図書）をはじめ、青少年読書感想文コンクール課題図書、読書活動推進協議会が推薦する「若い人に贈る読書のすすめ」（全２４冊）などを館内で展示しています。夏休休業中の読書の参考にしてください。

第５８回・夏休みの本（緑陰図書）

全国学校図書館協議会が選定した、今年の夏休みに子どもたちに読んで欲しい本が決まりました。令和６年４月～令和７年３までに出版された本から厳選したもので、高校生向けの８冊を紹介します。館内で展示しています。

『６ｄａｙｓ遭難者たち』
安田夏菜／著　講談社

夏休みの８月、同じ県立高校に通う３人の女子高校生が、別々の理由から一緒に山に登ることになった。元登山部の美玖が日帰り登山を計画、あとの２人、亜里沙と由真は初心者である。
「ゆる登山」のつもりだったが、下山の計画を変更したことで道を見失って遭難してしまう。死を意識した３人は、それぞれ異なる立場で自分自身と向き合うことになった。救助されるまでの６日間の緊張感を読者もともに体験する。

『願わくば海の底で』
額賀澪／著　東京創元社

東北地方の沿岸部にある高校に通っていた菅原晋也は、高校を卒業したが、入学予定だった美大に通うことなく姿を消した。
高校生活でのちょっとした事件に関連して、３年間の彼の日常をごく身近にいた人物たちが、章ごとに振り返っていく。
彼の飄々とした振る舞いの奥には、秘めた苦悩があることがわかる。最後には、彼の行方不明の真相が語られ、題名の意味を実感する。

『その本はまだルリユールされていない』
坂本葵／著　平凡社

まふみは、司法書士合格を長年目指していたが挫折し、学校司書となる。引っ越したアパートの大家が製本家であったことから、その繊細で奥深いリユール（手仕事の製本）工房の世界に関わることになる。
白紙の原稿を製本依頼する謎の青年や手渡したバッジをした人しか会わない大家の孫娘、本の結婚式を開催する古本カフェの店長などと出会い、本を通して周りの人々との繋がりを深めていく。

『アドニスの声が聞こえる』
フィル・アール／作　小学館

第二次世界大戦下のロンドン、少年ジョーセフは祖母の知り合いのミセスＦのもとに預けられ、彼女の経営する動物園を手伝うことになった。そこで出会ったゴリラのアドニスに対し初めは恐怖を感じていたが、世話を続ける。
空襲が激化するなか、転校先でいじめられるなど困難な状況に追い込まれていくジョーゼフではあったが……。
戦争の不条理のなかで、悩みながら成長する少年の姿を描いた衝撃作。

『〈弱いロボット〉から考える　人・社会・生きること』
岡田美智男／著　岩波書店

「弱いロボット」とは、どのようにして生まれてきたのか。情報・知能工学系の教授である著者が、研究室での開発時の話を、学生時代の様子を交えながら紹介している。
完全無欠ではない、他者の力を借りて目的を達成できる「弱いロボット」を通して、私たちが周りと協同して築ける関係性に言及している。
今までの学びのスタイルや、利便性・効率性重視のあり方を再考し、これからの社会や生き方を問い直す。

『わたしのｅｙｅＰｈｏｎｅ』
三宮麻由子／著　早川書房

４歳で目の手術を受けた後、光を失いシーンレスとなったが、現在は通信社で翻訳の仕事をこなすかたわらエッセイストとしても活躍する著者の頼れる相棒はスマートフォン。
画面読み上げ機能のボイスオーバーなどさまざまな機能を駆使することで生活の自由度、自立度が高まり夢が叶えられていく様子をユーモアを交えて綴っている。
現代の必需品であるスマホと IT 技術のさらなる可能性を感じさせてくれるエッセイ。

『僕は猛禽類のお医者さん』
齊藤慶輔／著　ＫＡＤＯＫＡＷＡ

北海道釧路市を拠点に活動する獣医師である著者が、オオワシやシマフクロウなど、傷ついた野生の鳥たちの保護と治療に尽力する日々を綴る。
命と真摯に向き合う現場の姿を通して、交通事故や鉛中毒など、人間の暮らしが鳥たちに及ぼす深刻な影響が伝わってくる。動物・人間・環境の健康を一体として捉える「ワンヘルス」の考え方を軸に、自然とどのように共に生きるか、命の繋がりについて考えさせられる。

『戦場の人事係　玉砕を許されなかったある兵士の「戦い」』
七尾和晃／著　草思社

これは沖縄南部の戦線で、隊の下士官１８人のうち、唯一生還し、人事記録や戦時中の記録を本土に持ち帰ることに成功した男の話である。
戦争体験、悲惨さを教訓めいて語るのではない。ただ戦後、男は戦友の家族らのもとへ、「最期の瞬間」を伝え届けることを自らの使命とした。著者はその生き様をたどるだけでなく、沖縄で戦死した米軍士官の視点も交えて、丁寧な語り口で戦争の愚かさを静かに語りかけてくる。

全国高等学校ビブリオバトル２０２５　群馬県大会参加者募集

図書室の廊下に開催要項を掲示しました。参加希望者（募集枠：①発表　②観戦　③運営ボランティア）は、９月１９日（金）までに図書室まで申し込みをお願いします。　日時：令和７年１１月８日（土）午後　会場：群馬県立図書館（前橋市日吉町１－９－１）